

令和4年度データサイエンス・ベーシックプログラム

外部評価報告書

1. カリキュラムについて

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、リテラシーレベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの内容を教育しているかについて、当該科目の構成科目である次の科目のシラバスで点検を行った。

- データサイエンス総論 I
- データサイエンス総論 II

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの学修内容を含んでいることが確認できた。一方、文部科学省が提示するリテラシーレベルのカリキュラム説明資料には「学生がデータ・AI 利活用事例を調査し発表するグループワーク等を行い、一方通行で事例を話すだけの講義にしないことが望ましい」と指示されているが、当該プログラムではグループワークが実施されていない。この点について、新潟大学からのオブザーバーから毎年 1500 人以上の学生が履修するデータサイエンスに関する初年次対象科目でグループワークを実施していると説明されたが、今後、当該プログラムでグループワークを実施するように、カリキュラムの見直しが必要である。

2. 履修状況について

新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、半数以上の 1295 人が当該プログラムを修了している。また、医学部医学科、教育学部はほとんどの学生が、他の学部も入学定員の半数以上の学生が当該プログラムを修了していることから、新潟大学では理系学部だけでなく、文系学部でも半数以上の学生がリテラシーレベルの教育を受けていることが確認できた。

文部科学省は全国すべての大学生、高等専門学校生にリテラシーレベルのデータサイエンス教育を実施することを目標としているので、より多くの学生が当該プログラムを履修するように努めていただきたい。

3. 授業評価アンケートの結果について

データサイエンス総論 I は 23 科目、データサイエンス総論 II は 21 科目が複数の教員により開講されており、授業評価アンケートを点検した。ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。一方、「学生が積極的に議論や協同作業すること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。このため、担当教員間で授業方法の情

報共有を行い、授業改善を進めていただきたい。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの内容を含んでいることが確認できた。当該プログラムを履修する学生を増やすように努めていただきたい。また、授業担当教員で授業方法を共有していただくと共にグループワークを取り入れ、授業改善を進めていただきたい。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム外部評価委員会